

第5回 (仮称) 新大田区観光振興プラン策定委員会 議事要旨

日時：平成31(2019)年3月4日(月) 15:00~17:00

場所：大田区役所 6階 602会議室

出席者：大下委員長、石坂委員、伊藤委員、河野委員、杉村委員、菅委員、中條委員、平江委員

※五十音順(委員長除く)

1. 開会

事務局から、開会が案内された。

2. 前回の討議内容について

資料1「第3回(仮称)新大田区観光振興プラン策定委員会 議事要旨」及び資料2「第4回(仮称)新大田区観光振興プラン策定委員会 議事要旨」に基づき、前回の討議内容について、事務局から確認が行われた。

(委員長)

- ・ 本日の議事要旨は、3月22日(金)までに各委員に送付する予定である。修正があれば3月29日(金)までに連絡してほしい。
- ・ その他、誤脱のチェック及び修正については、事務局にて対応する。

3. パブリックコメント及び区民説明会について

資料3「パブリックコメント(大田区区民意見公募手続)実施結果について」に基づき、事務局から説明が行われた。

(委員長)

- ・ パブリックコメントに対する区の考え方が資料3に示されている。各委員には確認をお願いしたい。
- ・ 区民説明会はどこで開催されたか。

(事務局)

- ・ 区役所内で開催した。

(委員長)

- ・ 参加者の状況はどうか。

(事務局)

- ・ 区民説明会の前に日本工学院専門学校との懇談会を開催しており、学生らは懇談会の後に区民説明会に引き続き参加した。
- ・ 区民説明会の出席者数は19名である。学生に加え、地域団体の関係者や区役所職員も参加している。

(委員)

- ・ 私も区民説明会に参加した。区民説明会では、区の観光資源を点から線、線から面になるように努力してほしいとの意見があったほか、文化の観点からも取り組んでほしいとの意見がみられた。

(委員長)

- ・ MICEを推進する際に日本工学院専門学校が重要な連携先となる。「区内に文化系大学がないことに不利を感じる」との意見が寄せられているが、大学が多いことで連携が難しい場合もある。大学を誘致することよりも、大学とのネットワークを構築することが重要である。
- ・ パブリックコメントに対する区の考え方については、原案のままで問題ないだろう。

4. 大田区観光振興プラン2019について

資料4「(案)大田区観光振興プラン2019～2023」および「同 概要版」に基づき、事務局から説明が行われた。

(委員長)

- ・ 8ページの「プランの計画期間」について、改元の影響で和暦を西暦に統一したほうが良いとの指摘があった。この点についてどのように対応するか。

(事務局)

- ・ 和暦と西暦の表示に関する統一ルールが庁内で出されているため、本プランでも統一ルールに合わせる予定である。

(委員長)

- ・ 区の統一ルールがあれば合わせた方が良い。
- ・ 各ページの章番号は外側に表示したらどうか。

(事務局)

- ・ 外側に表示するように修正する。

(委員)

- ・ パブリックコメントの段階ではサブタイトルが確定していなかったため、サブタイトルについての説明をお願いしたい。

(事務局)

- ・ パブリックコメントの段階では「日常にかくれた、どこにもない非日常に出逢える ワンダーシティ大田区」というサブタイトルを使用していたが、これがわかりにくいとの意見があったため、現在の「日常にかくれた 非日常に出逢える 観光都市おおた」という表現に修正した。
- ・ また、当該部分を本文と区別する形で見やすくした。

(委員長)

- ・ 現行プランの「生活^{いきいき}観光都市」という言葉は、次期プランにも使用されている。次期プランでは、「生活^{いきいき}観光都市」と「日常にかくれた 非日常に出逢える」が重要なフレーズである。サブタイトルというよりもキャッチフレーズとしてとらえた方が良いだろう。

(委員)

- ・ 41 ページの「(4) 事業推進力」では、「観光推進連絡協議会」が「観光連絡推進協議会」になっている。

(事務局)

- ・ 誤植であり、修正する。

(委員)

- ・ 観光推進連絡協議会および大田観光協会の役割分担について、具体的なイメージがあれば教えてほしい。
- ・ 今年度の観光推進連絡協議会の会合は3回のみで開催であった。そのような頻度しか開催されない中で、観光推進連絡協議会は大田区の観光を推進する役割が担えるのか。

(事務局)

- ・ 事業を実施する場合に観光推進連絡協議会が44ページの「大田区版プラットフォーム」に加わるイメージである。
- ・ 今年度は事業実施がなかったため、観光推進連絡協議会が主として懇談会の場として3回開催した。以前、事業実施があった際は専門部会も設置した。
- ・ 区と大田観光協会との役割分担については今後検討する。なお、大田区で観光振興を推進する際、大田観光協会が関係者をまとめる役割を担うと考えている。

(委員)

- ・ とりまとめ業務を委託するというイメージであるか。

(事務局)

- ・ 事業によっては委託も1つの方法である。具体的な進め方は今後検討するため、現時点では取組の方向性としてとらえていただきたい。

(委員)

- ・ 次期プラン前期の目標年次である 2020 年まであと 1 年半しかなく、大田区観光推進連絡協議会を年に 3 回開催するだけでは、事業を推進することが難しいと思われる。今後の進め方について検討してほしい。

(委員)

- ・ 大田観光協会はネットワークセンターになることを目指して事業を進めてきた。今後、大田区と連携しながら取り組んでいきたい。

(委員)

- ・ 参考資料の用語集で、観光エリアマネジメントに関する用語説明がなされているが、これは次期プランの重要なキーワードであるため、用語集ではなく、本文の中できちんと説明した方が良いのではないか。
- ・ 「シビックプライド」と「MICE」については、用語説明に加えた方が良い。

(事務局)

- ・ プランに用語説明を記載していない自治体もある中、一般的に使用されていない用語や独特の用語を中心に説明を加えた。

(委員)

- ・ 観光エリアマネジメントは今回の肝であり、世の中にはじめて出てきた言葉でもある。用語集ではなく、本文の中できちんと説明した方が良い。

(委員長)

- ・ 「シビックプライド」と「MICE」は用語説明に加えた方が良い。
- ・ 英文表記は半角表記にした方がわかりやすいのではないか。
- ・ 重点計画は役割分担を意識して、観光課と観光協会が一緒に作り上げていくことが必要と考える。

(委員)

- ・ 大田観光協会が中心になって取り組むといっても、関係者全員の協力が必要である。
- ・ 観光推進連絡協議会については、以前専門部会が設置されていた。専門部会であれば活発な議論ができるのではないか。また、専門部会の下にさらに作業部会を設置し、担当者レベルで連携について具体的に検討したら良いのではないか。その際、大田観光協会が委託を受けて作業部会を運営できると良い。
- ・ 観光推進連絡協議会は情報交換の場ではなく、事業も推進していくべきである。重点計画を策定する際に実現できたら良いと考える。

(委員)

- ・ 特区民泊の取組が地域に還元されるような形にしていきたい。
- ・ 災害時に観光客が避難してきたら地域として受け入れきれない可能性がある。対応について検討する必要がある。

(事務局)

- ・ 民泊については、15 ページで方向性を示している。
- ・ 地域の方に理解してもらえるような仕組みが必要である。区としては地域で感じられる課題を把握しながら取り組んでいきたい。

(委員)

- ・ なかには、地域の気持ちを見下す民泊施設のオーナーもいる。そのため、地域では民泊を利用する外国人観光客を歓迎したくないと考える人もある。

(委員)

- ・ それは外国人観光客の問題ではなく、オーナーの問題である。

(委員)

- ・ 宿泊するだけでなく、地域で消費してもらえるような取組が必要である。
- ・ 大田区では、災害時には、各部局が平常時と異なる役割を担う。観光・国際都市部も、災害時には旅行者への対応という役割を担っている。

(委員長)

- ・ 追加意見等あれば事務局まで連絡してほしい。なお、レイアウト等の細かい調整は事務局と委員長に一任していただきたい。

5. 前期重点計画（素案）について

「重点計画（前期）で取り組む事業（案）」に基づき、事務局から説明が行われた。

(委員長)

- ・ 過去の委員会では、選択と集中で具体的なエリアを決めた方が良いとの意見が多かった。そこで、プランの 42 ページでは、「“選択と集中”を意識した取組について、事業の重点化やリーディングプロジェクトの設定等を図ります」という表現にしている。
- ・ 委員会からの要望として、「2. 重点計画策定に基づく“選択・集中”による着実な取組の展開」で記載されている内容についてしっかり取り組んでほしいことを区に伝えたい。

(委員)

- ・ 以前の委員会では、少ない予算で総花的に事業を行うよりも、重点事業に資源を集中して取り組んだ方が良いと述べた。重点計画を策定する際にそれを意識して取り組んでもらえると良い。

(委員)

- ・ 「重点計画（前期）で取り組む事業（案）」に示されている事業は全部観光課の事業であるか。

(事務局)

- ・ 全部ではない。土木やまちづくり関係の部局が所管する事業もある。

(委員)

- ・ 事業数が多いため、観光課のみでは対応しきれないのではないか。

(委員)

- ・ かなり新規事業が多いため、やるには大変なのではないか。

(事務局)

- ・ あくまで現時点の案である。すべての事業を行うには観光課だけでは対応しきれない。

(委員)

- ・ 難しいのは前期の計画期間が2年しかない。2019年度の予算編成が既に終了しているなかで、すべての事業について予算編成されているわけではないという理解で良いか。

(事務局)

- ・ この重点計画に掲載してあるからといって、2019年度からすべての事業に予算を付けて取り組むわけではない。なかには2019年度に検討し、2020年度に実施する事業もある。

(委員)

- ・ 体育館の活用などは既に行われている取組である。判断基準によっては新規であるかどうかが変わるのではないか。

(事務局)

- ・ 基準が曖昧な部分があるが、現時点の案として提示した。

(委員)

- ・ 地域関係者と連携しながら、実現できる事業から取り組んで行きたい。
- ・ 大田観光協会をネットワークセンターとして活用していただきたい。

(委員長)

- ・ 委員会からの要望として3点を伝えたい。まず、大田区版プラットフォームを形成し、関係者とのネットワークを構築しながら効果的な事業展開を行うことを要望する。次に、重点計画は事業ベースではなく、エリアまたはテーマでの選択と集中を考慮しながら策定していただきたい。さらに、重点計画を策定する際は、関係機関、大田観光協会等と検討していただきたい。また、各委員にもご相談いただくこともやって良いと思う。

6. 閉会

事務局から閉会が宣言された。

以上